

笠岡市城見地区

用之江

…ウォーキングコース

約1時間30分

空を映し、季節を映し、人の暮らしを映す。
用之江の棚田には、ゆっくりとした時間が
流れています。

PICK UP!

01

気になった建物!

歴史ファン必見!
城見地区に残る旅人の休息地

1. 社稷 (しゃしよく)

歴史ロマンが息づく、国内でも超レアなスポット

「社稷(しゃしよく)」という珍しい名前の神さまをご存知ですか?
実はこれ、土地の神様と五穀の神様を祀る、古代中国由来の
とても貴重なものです。地域誌『城見のあゆみ』によると、
この貴重なスポットが茂平に3基、用之江に1基、
福山市大門町に5基、福山市加茂町に1基、有田に1基、
このエリア周辺だけに集中して残されています。

ぜひ足を運んで欲しい
旧2号線沿い



2. 四つ堂 (よつどう)

昔の旅人に思いを馳せる、
おもてなしの心が詰まった癒やしの空間

昔はこの場所で
お接待が
あったそうです



街道沿いに佇む「四つ堂」は、かつて往来する旅人たちが足を休めたノスタルジックな休憩所です。
昔はお堂に立ち寄りとお茶が振る舞われ、なんと「一泊だけ」なら無料で泊まることも
許されていたといひます。当時の人々の温かい「おもてなしの心」が今も空気の中に溶け込んで
いるかのような、ホッと心が和む癒やしの歴史スポットです。

3. お大師様 (おたいしさま)

地域を見守り続ける、心優しき守護仏

古くから地元の人々に「お大師様」と親しまれ、
大切に守られてきたお姿がここにありま。

一歩足を踏み入れれば、
穏やかに静かな時間が
流れ、日々の忙しさを
忘れさせてくれます。



PICK UP!

02

ご利益ありそう!

ぜひ足を運んで欲しい
寺社

菅原神社

用之江「菅原神社」の魅力を徹底解剖

近隣の吉浜地区にあるカキツバタの名所とは一味違う、
城見地区(用之江)の隠れた名社「菅原神社」。万治2年(1659年)に
京都の北野天満宮から勧請され、360年以上にわたり地域を
そとと守り続けてきた歴史ある神社です。

【春限定】車窓からも見える!一足早く咲く「幻のピンク」

参道の入り口を彩る見事な一本桜。実はこれ、一般的なソメイヨシノよりも一足早い3月下旬に満開を迎える
「コヒガンザクラ(小彼岸桜)」です。驚くほど鮮やかなピンク色をしています。その美しさは、神社の前を通る
国道2号線からはもちろん、JR山陽本線の電車の車窓からでもパッと目を引くほど。



菅原神社内 /

龍王神社

C 水神様



龍王神社は神社の下にカマがあり、そこに水が貯まると一年、水に困らないという言い伝えがあります。

妙見社

D 眼病に霊験あり



貴船(貴布祢)神社

E 水神様



上谷・青木組荒神社

F 稲の神様



岩下神社

G

この立地から見下ろすパノラマの絶景 /

境内からの素晴らしい景色!眼下に見える風景

国道2号線やJR山陽本線、城見小学校、菅原神社、
そして井原・坪生(福山市)方面へと続く県道などが一望できます。

鉄道ファンにもおすすめ
走る電車を上から見下ろせるため、ちょっとした鉄道の撮影スポットです。

弁財天

H 水の神様

城見地区の弁財天の特色 /
水の神様としての信仰

弁財天は七福神唯一の女神として「金運」
や「芸事」の神と思われがちですが、
元々はインドの河の神(Sarasvati)に
由来する「一級の水神(みずがみ)」です。

【晴れの国】に隠された、知られざる「雨を乞う」歴史ロマン

「晴れの国」として有名な岡山県。しかし、ここ城見地区には、ギリギリの気候を生き抜いた先人たちの神秘的な
「水と雨の信仰」が今も深く息づいています。実は、年間雨量が500mmで畑作、1000mmでようやく稲作ができる
と言われる中、このエリアはまさにその瀬戸際。そのため、人々は恵みの雨をもらす伝説の「龍王(りゅうおう)」を
祀り、祈りを捧げ続けてきました。雨を乞い、自然と対話してきた城見地区。そんな神秘的な謎と歴史ロマンを
紐解く、特別な旅へ出かけてみませんか?



花見の様子を
YouTubeで
見られます

昔は「岩の下から登る」と言われたような
険しい山道でしたが、現在は城見台団地から、
すぐにアクセスできるよう整備されています。